

がいこくせきけんみん
外国籍県民かながわ会議 (第10期)

ていげんそあん
提言素案

へいせい ねん がつよう か
2018 (平成30) 年7月8日

かながわけんりつちきゅうしみん だい ちゅうかいぎしつ
神奈川県立地球市民かながわプラザ大・中会議室

かいぎよう
【合同会議用】

じょうほうていきょう しゅうろうぶかい
1 情報提供・就労部会

1. かながわけんか たげんごじょうほう でんしか かん ていあん
神奈川県下の多言語情報 の電子化に関する提案・・・1
2. たげんごじょうほう でんしばん しゅうち かん ていあん
多言語情報の電子版の周知に関する提案・・・4
3. がいこくじん じょうほうていきょう
外国人への情報提供・・・5
4. がいこくじんけんみん ぎょうせい あいだ そくしん
外国人県民と行政の間のコミュニケーション促進・・・6
5. がいこくじん たいせい きょうか
外国人へのサポート体制の強化・・・10

こそだ きょういくぶかい
2 子育て・教育部会

6. がいこくじんこそだ がいこくじん
外国人子育てひろば、外国人ママひろば・・・12
7. がいこく せいと たい けんりつがっこう たいおう
外国につながる生徒に対する県立学校の対応や
いじめ問題の減少・・・15
8. こくさいきょうしつ きのうきょうか
国際教室の機能強化・・・17
9. がっこうげんば たぶんかきょうせいきょういく すいしん
学校現場での多文化共生教育の推進・・・19

がいこくせきけんみん かいぎいいんめいぼ
3 外国籍県民かながわ会議委員名簿・・・21

1. 神奈川県下の多言語情報の電子化に関する提案

【施策化の提案】

- ① 神奈川県下の多言語行政サービス情報や、その他県関連団体が発信する多言語情報をすべて電子化し、1か所に集約する。
※集約する場所は、県のホームページとする。また、検索されやすいよう情報はPDF以外の形で格納する。
- ② 県のホームページのトップページに、多言語情報を示すメニューバーを新設する。
※現行ではトップページを何度かスクロールしなければ、多言語情報を示すメニューにたどりつかない。そのため、多言語で「言語」を表す単語を画面上部に置き、クリックするとそれぞれの言語の情報にたどりつけるようにしたい。
- ③ 子育て・教育・医療分野の情報を優しい日本語をはじめ、もっと多くの言語で作成し、資料の配布場所を拡大すること

【理由】

- ① 神奈川県下にある多言語情報のうち、たとえば県の関連施設内にて、ポスターなどで周知するケースも散見される。紙媒体での周知は、伝わる範囲が限定的となることから、より多くの外国籍県民に情報が伝わるようそれらを電子化して、県のホームページに集約させたほうが効率的だと考え、上記のとおり提案する。
現行の県のホームページは、外国籍県民からすると、多言語情報のページにたどりつきにくい。そのため、トップページの目立つところに、多言語で「言語」表す単語を置き、そこをクリックすれば、ご自身が読みやすい言語で情報が集約されているページへ誘導される。

また、現行の「HELLO KANAGAWA」というメニュー名は、多言語情報の入り口であることをイメージしにくいという外国籍県民の声から、それぞれの国の言葉で「言語」を表す単語を置き、そこを多言語情報への入り口とする。

- ③ 公益財団法人かながわ国際交流財団から子育て全般・母子保健・保育に関する情報を多言語化しホームページ等で案内している。

「外国人住民のための子育てチャート～妊娠・出産から小学校入学まで～」が2016年11月発行されているが、2016年以前に生まれたお子さんに対しては配布されていない。

- ・「外国人住民子育て応援キット」の配布

〈対象言語〉6言語（中国語・タガログ語・ベトナム語・ポルトガル語・スペイン語・英語）

〈内容〉子育てチャート、産前・産後確認シート、多言語医療問診票（産婦人科・小児科）、多言語ナビかながわのチラシ、INFO KANAGAWA のチラシ

〈配布場所〉県内市町村母子手帳交付窓口、協力医療機関（産婦人科・小児科）、

多言語支援センターかながわ（外国人住民へ窓口で配布）

〈配布期間〉平成30年3月まで（在庫がなくなり次第終了）

- ・資料の多言語化が充分ではない

多言語医療問診票（18言語）以外は6～7言語程度。やさしい日本語版もな

く日本語や他の言語がわからない人たちはわかりにくい。

にほんご ふじゆう しゃかいりかい ふじゆうぶん がいこくじん みずか じょうほう さが むずか
日本語が不自由、社会理解が不十分な外国人にとって自ら情報を探すのは難
しいことである。ライフコースに沿って適切な情報を積極的に提供してもら
うことで、トラブル等を未然に防ぎ、暮らしやすいことが期待できる。

【参考】

がいこくじんじゅうみん こそだ しえん
外国人住民のための子育て支援サイト <http://www.kifjp.org/child/>

たげん ごいりょうもんしんひょう
多言語医療問診表サイト

<http://www.kifjp.org/medical/>

2. 多言語情報の電子版の周知に関する提案

【施策化の提案】

がいこくせきけんみん かなら た よ しちょうそん やくしょまどぐち けん たげんごじょうほう
外国籍県民が必ず立ち寄る市町村の役所窓口で、県に多言語情報があること
をつた わた
を伝えるチラシを渡す。

- 1) チラシは1枚のみ。
- 2) 載せる情報は県の多言語情報ページの入り口に直接リンクするQR
コードやURL程度のもの。

【理由】

おおく がいこくせきけんみん たげんごじょうほう けん
より多くの外国籍県民に多言語情報があること、また、それらが県のホーム
ページに集約されていることを周知するために、市町村の役所の窓口を訪れ
がいこくせきけんみん くば こうほうかつどう おこな
た外国籍県民にチラシを配り、広報活動を行う。

ただし、チラシに載せる情報量が多すぎるのではかえって困惑させてしまう

おそ
恐れがあるため、多言語情報ページの入口に直接リンクするQRコードやURL

ていど りょう おさ
程度の量に抑えておくのが妥当だと考える。

3. 外国人への情報提供

【施策化の提案】

どうちいきしゅつしんしゃ げんご ひと つど ばしよ かいぎ かいさい
同地域出身者や言語の通じる人たちの集う場所でのセミナーや会議を開催

【理由】

がいくじん とく じん おな しゅうかん ぶんか も ものどうし あつ
外国人、特にラテンアメリカ人たちは同じ習慣や文化を持つ者同士で集まる

しゅうかん つるみく あつぎし かわさきし あいかわまち やまとし おも
習慣があります。鶴見区、厚木市、川崎市、愛川町、大和市が主にブラジル

じん じん つど ちいき
人をはじめラテンアメリカ人が集う地域となっている。

この地域には、ラテンアメリカ人が経営している売店、レストラン、さらに派遣

がいしゃ いとな もの
会社を営む者もいます。

じょうき かっぱつてき ちいき ひと しぜんさいがい たいさく ちしき ふじゅうぶん
上記のような活発的な地域の人たちは自然災害の対策や知識が不十分である

おも かいぎ おこな ていあん じん
と思うためセミナーや会議を行うことを提案します。ラテンアメリカ人たち

による緊急活動を行うようになれば異文化交流の発展に繋がるいい機会だ

おも しゅうきやくりよく ぼうさい かん ちしき ほうふ じんぶつ しゅさい
と思います。集客力と防災に関する知識が豊富な人物を主催となっていた

ただければ、当セミナーは外国人自身に開催してもらうことも可能。

レストランや売店、オフィスなどに掲示板やパンフレットを置くことも可能で

あり、同時に外国人に配布も可能である。

また、県や市が所持している会議室や集会所などを近所に暮らしている

がいくじん つどう しょう
外国人を集うのに使用できます。

4. 外国人県民と行政の間のコミュニケーション促進

【施策化の提案】

神奈川県に転入して来たばかりの外国人県民を対象に行政の制度や情報、生活を送る上でのルールやマナー、県の魅力等を説明し、自立して安心した生活が送れるよう支援するオリエンテーションを開催する

【理由】

2020年オリンピックに伴い多くの外国人が神奈川県に来る事でしょう。また現在日本の他の都道府県に在住の外国人で神奈川県に転入して来る外国人も増える事が予想されます。そこで、神奈川県に入ってくる外国人の滞在を暮らしやすくし、神奈川県に住み続けたいと思ってもらうように様々な工夫・改善が必要だと思えます。

また普段の生活ではわざわざ行政機関に足を運ぶ事はないので、このような場を設けて外国人県民と役所の役員の間、また外国人コミュニティー内でも交流を図る機会を与える事になるでしょう。

情報や制度の認知・利用状況が低い（外国人市民意識実態調査より） - 既にある豊富な情報や制度がより効果的・効率よく活用される為に情報を届けるプロセスの改善が必要

全ての情報や制度を詳しい説明するのではなく、情報や制度がある事の説明を受ける場（オリエンテーション）のようなプログラムがあるとよい

本提言の「オリエンテーション」は外国人市民が情報を得るための入り口であ

り、詳細の内容については区役所窓口や専門機関につなぐ役割を担う。

当オリエンテーション・プログラムは外国人県民が自立した生活を送る為の支援となる。現存する資料（ウェルカム・セット、しおり等）をベースに説明・補足情報を提供。

具体的なオリエンテーション・プログラムのイメージ：

- 1 生活に最低限必要な情報
 - 1.1 行政サービスの窓口と問合せ先一覧
 - 1.2 ごみ分別、粗大ごみの出し方
 - 1.3 医療情報（例：119番多言語対応、多言語医療問診票、医療通訳サービス等）
 - 1.4 基本的・義務付けられている制度
 - 1.4.1 税金、健康保険、年金等
- 2 申請主義の文化的背景
- 3 生活に役立つ情報
 - 3.1 日本語学級（例：識字学級の紹介）
 - 3.2 神奈川県内の施設（例：国際交流センター、県民センター、市町村別の施設の案内）
 - 3.3 町内会について
- 4 日本人が外国人に知って欲しい内容

4.1 日本で生活する上で守る必要があるルールやマナー（例：自転車の乗り方、夜中は騒がない）

4.2 交流の場や楽しく暮らす為に基本的な文化やお祭り情報

対象：

神奈川県に転入して来た人（主に海外から来た人）

実施時間：

2時間程度（十分なQ&Aを含む）

Q&A：

行政機関関係者・有識者に自由に質問出来る事・時間をしっかり確保することが重要。多言語で対応出来る事が望ましい。

対応言語：

現存する多言語資料を活用。主な対象者である外国人の事を配慮し外国語でのセッションを開催（例：英語の回・中国語の回）

全ての外国での実施は非現実的な為やさしい日本語の回も開催する。

開催者：

オリエンテーション・プログラムの内容を熟知している有識者＋通訳者の体制で実施。県と市町村・国際交流会が協力し合い実施するのが理想的。

場所・頻度：

神奈川県各地を網羅するように実施して欲しい。転入して来た外国人県民が楽に・楽しく生活出来るように各言語での回を複数回開催して欲しい。

広報：

既存の広報手段（ウェルカム・セット、市・区役所、県のホームページ等）、

民間企業や県内の大学等と連携して広報・周知を行う。

5. 外国人へのサポート体制の強化

【施策化の提案】

- ① がいこくじんしゅうしょく ず さくせい ていきょう
外国人就職フローチャート図の作成と提供
- ② かんれん わか せつめい さくせい ていきょう
関連ビデオなどで解りやすく説明ツール作成と提供
- ③ しゅうしょくしゃおよ かぞく てきょう せいかつほしょう ほけんるいふ
就職者及びご家族に適用する生活保障サポート保険類増やす
- ④ しゅうかつどう しゅうしょくご しつぎょう けいたい たいおうげんご じょうほう
就職活動、就職後、失業、それぞれの形態にての対応言語の情報をもつ
と増やすように

【理由】

がいこくせきけんみん かながわ かいぎ ことし だいじゅうつき むか
外国籍県民かながわ会議は、今年になって第十期を迎えることとなりますが、

か こ ていあん じつこうせい じつこうせい いいんたち いちぶ
過去の提案の実効性または実行性については、委員達はたとえ一部でもその

かくにん さんにゆう ほう よ おも
確認に参入した方が良いと思います。

① 外国人が日本で就職して働く流れについて

ひと せいけい た はたら
人は生計を立てるためには働かなければならないことで、きちんとした

しゅうしょく で き かぞくふく にほん あんしん く
就職が出来てこそ、ご家族含め日本で安心をして暮らせるようになるでしょ

う。そこで、しえん ひつよう がいこくじん たいせい きたい
支援が必要な外国人へのサポート体制が期待されます。

とく はじ にほん しゅうしょく ばあい ぶんか ちがい ことば かべ
特に初めて日本での就職の場合、文化の違いやそれに言葉の壁もあるため、

さいていげんかくにん ひつよう じこうおよ か しよるい かくにんぶそく
最低限確認しておく必要な事項及び交わすべき書類などについて、確認不足の

ままで入社してしまい、とちゅう ろうしかんけい ほっせい たいへんつら けいけん
途中で労使関係トラブル発生によって大変辛い経験さ

せられた方がいます。

たと しゅうしょくかつどう さい ま きゅうじんじょうほう しごとないよう こようけいたい ただ
例えば、就職活動の際には 先ずは、求人情報の仕事内容や雇用形態を正し

りかいし、フルタイム勤務か、パートタイム勤務か、正社員か、契約社員、派遣

社員などのそれぞれの求人雇用形態を明確にした上で、勤務時間と賃金、雇用

契約書等確認事項をきちんと確認しなければなりませんとか。

なお、入社後に外国人にも適用する雇用保険や生活保障サポートできる保険

は何かあるか、会社からでも相談窓口のようなどころからアドバイスを頂ける

場が必要となります。

② 外国人就職向け情報を更に多言語化を進める必要

国際課の調査によると、「神奈川県では、「かながわ労働センター」という場所

で、外国人労働相談を中国語、スペイン語、ポルトガル語で実施しています。言語

については、英語やタガログ語で実施していたことも、過去にあったようですが、

問い合わせ件数があまりない状態が続いたため、現在では実施していないそう

です。対応言語は、ニーズの多い言語を実施している」ことが分かりました。

確かに対応言語を設けるには、ニーズの多い言語から実施すべきであろうで

すが、時々事情が変わることもあったと考え、対応言語をもっと増やしておけば

助かるとおもわれます。

例えば、英語や中国語以外の言語、カンボジア語、ベトナム語など少ない言語

種類も増やして欲しいです。

6. 外国人子育てひろば、外国人ママひろば

【施策化の提案】

がいにこくじんこそだ じたい りょう たい しえん ふ
外国人子育てひろば自体の量とそのものに対する支援を増やす。

1. 既存の外国人子育てひろばの支援を増やすこと。具体的には子ども健康センターとのコネクションと外国人のボランティアを増やし、ウェブサイトなどで公告をする。
2. 区役所の外国人子育てひろばを増やすこと。
3. もう一歩進めると、ママひろばが、子供たちの通学後に外国人の母親が集り、学校と生活に関する情報を交換する場となること。

【理由】

がいにこくじん おやこ そうだん ともだち つく かのじよ いぼしよ
外国人の親子が相談をし、友達を作ることのできる彼女たちの“居場所”となる外国人子育てひろばをもっと増やすこと。神奈川県内に住む外国人の人口に比べ、県内にある外国人子育てひろばの数が少ないことから提言する。

にほんじんむ こそだ かながわけんない くやくしよ
日本人向けの子育てひろばやサロンは神奈川県内に区役所などにたくさんある

がいにこくじんむ こ かわさきしない たまく たかつくやくしよ
が、外国人向けのものは6,7個である。（川崎市内だと、多摩区、高津区役所ト

こくさいこうりゅう ない かしよ よこはましない みなみく
国際交流センター内にある“コアクラブ”の3箇所、横浜市内だと、南区の

“はぐはぐの樹“、鶴見交流ラウンジ内にある”カンガルーサロン”とわっく

んひろばの3箇所が挙げられる。) 日本人向けのものではなく、外国人向けのもの

をつく 理由 ことば かべ ぶんか くに せいど ちが
を作らなければならない理由として、言葉の壁、文化と国の制度の違いがある。

とく ことば かべ にほんじんむ ぼしよ たげんごたいおう にほんご
特に、言葉の壁としては、日本人向けの場所では多言語対応がないため、日本語

じゅうぶん はな ひと ちかづ がいにこくじん
を十分に話せない人にとって近付きにくくなってしまふ。外国人ひろばのメリ

ットとしては、外国人の親同志が交流できるため、悩みを相談しやすく、情報

こうかん ばしよ かのじょ にほん いぼしよ
 交換をしやすい場所となることである。彼女たちの日本で”居場所”となる。

じつれい かしよ がいこくじんこそだ
実例：2箇所の外国人子育てひろば

たまく がいこくじんこそだ さんかしや じょうほう
1. 多摩区外国人子育てひろばの参加者の情報

にん にほんじん にんがいこくじんひとり
 ボランティア 4人：日本人3人外国人1人

さんかしや おやこ 参加者（親子）												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
へいせい 平成28				くみ 6組	くみ 7組	くみ 10組	くみ 10組	やす 休み	くみ 9組	くみ 6組	くみ 6組	くみ 3組
へいせい 平成29	くみ 3組	くみ 4組	くみ 4組	くみ 2組	くみ 1組	くみ 4組	くみ 6組	やす 休み	くみ 9組	くみ 8組	くみ 4組	くみ 6組
へいせい 平成30	くみ 4組	くみ 9組										

たかつくがいこくじん こ ほごしや こそだ さんかしや じょうほう
2. 高津区外国人の子と保護者のため子育てひろばの参加者の情報

にん にほんじん にんがいこくじん にん
 ボランティア 6人：日本人6人外国人0人

さんかしや おやこ 参加者（親子）												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
へいせい 平成29				くみ 2組	くみ 4組	くみ 5組	くみ 9組	くみ 6組	くみ 7組	くみ 10組	くみ 12組	くみ 5組
へいせい 平成30	くみ 2組	くみ 3組										

高津区外国人の子と保護者のため子育てひろばの特別イベント

月	イベント	参加者 (人)
7月2017年	防災訓練	28人
11月2017年	地域めぐり	28人
2月2018年	料理+文化	32人

(参考)

川崎市ホームページ、鶴見国際ラウンジホームページ、はぐはぐの樹だより、

南区ガイド、相模原市ホームページ、国際子育てひろばコアラホームページ、

多摩区外国人子育てひろば、高津区外国人の子と保護者のため子育てひろば

7. 外国につながる生徒に対する県立学校の対応や いじめ問題の減少

【施策化の提案】

- ① 外国につながる子どもに対する小中学校の対応について（いじめ問題）
- ② 高校進学後のサポート

【理由】

近年、神奈川県内の外国人人数が増え続けている。それに伴い、県内の各学校に入学する外国につながる生徒が増えつつある。学校のなかのいじめ問題が以前より多くなっていると見られている。そこで、小学校2校と高校1校を調査したところ、言葉や文化の違いにより、日本人と摩擦が起きてしまったり、日本人にいじめられたり、さらに外国人同士からいじめを受けることがわかった。

調査した小学校では「国際教室」という外国につながる子どもの勉強だけの場を設けているが、具体的な対応やいじめ問題を解消する案を現時点で定めていないことがわかった。

調査した高校は毎年いじめに関する匿名アンケートを取っている。しかし、名前を書かないため、たとえいじめられたことを書いてあっても、なかなかその人を探し出すことが難しく、成果も著しく少ない。※

さらに、県立高校の場合において、「在県外国人等特別募集枠」という外国人に対して、特別な枠がある。「在県外国人等特別募集枠」を行っている高校は13ヶ所ある。外国人生徒はある程度の日本語の生活用語がわかるけど、高校に入ってから、日本語の学習用語を勉強しなければならない。そのため、放課後の時間を利用し、外国につながる生徒の集い場や日本語を学習のところが必要だと考えている。少なくとも、週に1回開催することは望ましい。

日本で生活を送るために、日本語は例外なく必要であり、特に高校のなかで

ともだちづく^{ともだちづく} べんきょう^{べんきょう} かに^か 欠けてはいけないものである。日本語がうまくできない^{にほんご}と、勉強がなかなかついてい^{べんきょう}かなく、人から孤立^{ひと}すること（いじめ問題もここから生^{しょう}じる）になりがちである。調べたところ、ある県立高等学校では「学習サポート」を設^{もう}けていることがわかった。その「学習サポート」の主旨は単なる日本語の勉強だけでなく、中間テストや期末テスト前の教科勉強もしている。それをきっかけに、友達作りもできる。外国につながる生徒の相談や心のケアを含めた場所づくりやまた、それに対^{たい}象になる教職員の研修を実施することは、必要である。従^{したが}って、いじめ問題を防^{ふせ}ぎ、解消することができる。過去の提言は高校に対して、高校に入る前、いわゆる高校受験（在県外国人等特別募集枠の設置）や高校に出る前いわゆる大学受験（県内の大学入試における条件緩和）を触れたが、高校生活の部分に対して、ほぼ触れられていないため、提言を設置する必要があると考^{かんが}えられる。

※調査中では、なかなか本音を聞けない。学校がわざと隠しているようで、具体的な数字やデータ（たとえば、在籍外国生徒数やいじめの件数）を取^とることは非常に難^{むずか}しかった。前回の会議で県立高校に入学した外国人生徒の実態について、アンケートやヒアリングを進めるとい^{すす}う意見があったため、これから「在県外国人等特別募集枠」を行^{おこな}っている高校でアンケートやヒアリングをする。

8. 国際教室の機能強化

【施策化の提案】

- こくさいきょうしつ しょうがっこう こくさい かしょう ちゅうがっこう こくさいぶかつ
① 国際教室で小学校は「国際クラブ（仮称）」・中学校は「国際部活
かしょう おこない たんとうきょういん はいち じどうせいと しどう ていきてき にほん
（仮称）」を行い、担当教員を配置し、児童生徒に指導し、定期的に日本
じんじどうせいと わたし ぼこく いぶん かこうりゅう
人児童生徒に「私の母国」などを異文化交流をすること
- がいにく じどう せいと ぼごしゃ おや かい つく こくさいきょうしつ
② 外国につながる児童と生徒の保護者だけの「親の会」を作り、国際教室で
ていきてき こども がっこうせいかつ かにせいかつ じょうほうこうりゅう そうだん たんとうきょういん
定期的に子供の学校生活や家庭生活について情報交流や相談し、担当教員
はいち しどう せんばい ぼごしゃ こうはい ぼごしゃ しどう
を配置し、指導する。そして、先輩の保護者が後輩の保護者に指導をする。

【現状と理由】

げんざい よこはまし がいにくじん にほんごがくしゅうしえん と く
現在、横浜市における外国人への日本語学習支援の取り組み

ねん がつ がいにくじん しゅうちゅう にほんごしえんきよてんしせつ かいせつ
* H29年9月に、外国人が集中するエリアに、日本語支援拠点施設を開設。

にほんごしどう がっこう きょういくそうだんたいおうとう
日本語指導・学校ガイダンス・教育相談対応等

こくさいきょうしつたんとうきょういん ついかはいち
* 国際教室担当教員の追加配置

にほんごしどう よう がいにくせきなどじどうせいと めいいじょう きょういん にんかはい めい
日本語指導を要する外国籍等児童生徒が5名以上→教員1人加配・20名

いじょう きょういん にんかはい
以上→教員2人加配。

⇒H29年度の市費移管に伴い、配置基準を見直す予定

にほんごしどう ひつよう じどうせいと たい しえんじぎょう
* 日本語指導が必要な児童生徒に対する支援事業

じどうせいとしえんひじょうきんこうし がいにくごほじょしどういん はいち
児童生徒支援非常勤講師・外国語補助指導員を配置

よこはましにほんごきょうしつ
* 横浜市日本語教室

にほんごしどうしかく こうし しどう
日本語指導資格をもった講師が指導

ぼごもち しえん
*母語を用いたボランティア支援

じどうせいと ぼご せいかつてきおう がくしゅうしえん
児童生徒の母語ができるボランティアによる生活適応・学習支援

がくつうやく ほごしゃたいおう
*学区通訳ボランティア (保護者対応)

こじんめんだん にゅうがくせつめい かていほうもんとう つうやく こくさいこうりゅうきょうかい いたく
個人面談、入学説明、家庭訪問等における通訳 (横浜市国際交流協会に委託)

た かくしゆ はっこう にほんごしどうしゃようせいこうざ じっし きょういんむ
*その他、各種ガイドブックの発行・日本語指導者養成講座の実施 (教員向け

けんしゅう がいこくせき がいこく じどうせいと ねん にん ねん
研修) ただし、外国籍・外国につながる児童生徒はH25年の6995人→H28年の

にん にほんごしどう ひつよう じどうせいと ねん にん ねん にん ねん
8423人。日本語指導が必要な児童生徒はH25年の1397人→H28年の1670人、3年

かん ぞうか
間で20%増加。

かぎ きょういん なか ぞうか けいこう てんしゅつにゆう はげ せんせい じどうせいと
限られている教員の中で、増加の傾向と転出入が激しく、先生も児童生徒も

くろう いじょう かいぜん がっこう なか あんてい
苦勞しています。以上2つの改善をすることによって、学校の中で、安定なただ

たぶんかきょうせい かんきょう せんせい にほんじんじどうせいと がいこく
多文化共生の環境ができることによって、先生、日本人児童生徒と外国につな

じどうせいと ほごしゃ れんけい か いま じだい がっこう
がる児童生徒、保護者がよく連携し、グローバル化の今の時代では、より学校

せいかつ じゅんちょう
生活が順調でプラスになるでしょう。

さんこう
(参考)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/shikai/pdf/journal/28-5.pdf#search=%27%E5%B7%9D%E5%B4%8E%E5%B8%82%E6%95%99%E8%82%B2%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A+%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E6%95%99%E8%82%B2%E8%AA%B2%27>

9. 学校現場での多文化共生教育の推進

【施策化の提案】

① 多文化共生教育・国際理解教育の外国籍講師等を紹介する窓口の設置

1) 既にある実践や人材の把握、確保

2) 学校現場への紹介やコーディネイト業務を担う

② 学校現場での多文化共生教育・国際理解教育の実態調査

【理由】

①現在たくさんの外国につながりを持つ子どもたちが公立学校に通っている中、学校現場では日本文化に慣れ、日本語を学ぶためのサポートは少しずつ推進されているが、国際理解教育や多文化共生教育については各現場の先生方が手探りで進めている現状がある。

2017年実施した、神奈川県西部S市における国際理解教育の実践についての研究によれば、国際理解教育を実施することに関心があるものの、実際の実施率は総合学習の時間において2016年で小学校23%、中学校11%となっている。また、「国際理解教育を実施するにあたり、どのような資源や情報が必要か」という質問に対しての回答では「人材」と答えた教師が最も多く、その内訳では①語学力②海外事情の知識③外国人との交流機会であった。このような回答をみても、外国につながりを持つ人材が国際理解教育などにもっと積極的に関わっていく必要がある。

今まで実施された国際理解教育や多文化共生教育の実践状況を見ると、外国につながりのある児童生徒が多い学校や、地域に外国人を支援するNPOや団体など相談できる所がある場合の実施率が高い。実際に、K市で行われている「民族文化講師ふれあい事業」は地域の団体が事業を受託する形で、継続的な取り組みとして学校に根付いている。身近に相談・連携できる人や団体、窓口が

あることで、実施率が上がることが期待できる。

10期に至るまで、国際理解教育や多文化共生教育についてはたくさんの提言が出されている。高等教育内での実践については、かながわ国際交流財団(K I F)の「高校国際教育支援事業」や「多文化共生教育ネットワークかながわ」の教育・進路サポート事業などの実績があるが、主に高等教育への支援が中心となっており、小中学校については各自治体の教育委員会や担当部署への要請や研修実施にとどまっている。県として、国際理解教育や多文化共生教育の重要性を尠す意味でも実用性のある紹介窓口の設置は重要な視点である。

②美態に基づいた必要人材や連携の在り方などを模索しより実用性のあるものを立ち上げていくためにも、現在ある実践や活動を活用しより良いシステムを構築するためにも、小中学校における実態調査を実施することは不可欠である。

(参考)

- ・「民族文化講師ふれあい事業」川崎市教育委員会

<http://www.city.kawasaki.jp/templates/outline/cmsfiles/contents/0000020/20325/file13562.pdf>

- ・「高校国際教育支援事業」かながわ国際交流財団

<http://www.kifjp.org/nimp/highschool>

- ・多文化共生教育ネットワークかながわ

<http://www15.plala.or.jp/tabunka/action.html>

がいこくせきけんみん かいぎだい きいじんめいぼ
 外国籍県民かながわ会議第10期委員名簿

しめい ごじゅうおんじゆん
 (氏名の五十音順)

しめい 氏名	ざいじゆう ざいきんち 在住・在勤地
いわまつ ひさし 岩松 寿	あつぎし 厚木市
かわもと よしのり 河本ファビオ良則	かわさきし 川崎市
くらはし 倉橋ジェラルデン	よこはまし 横浜市
ささき せいしろう 佐々木 聖壘	よこはまし 横浜市
サリ アビシエク	かわさきし 川崎市
そう せい 宋 清	ざまし 座間市
ちよう ぶんぼん 趙 永鳳	よこはまし 横浜市
トニー ジャスティス	さがみはらし 相模原市
なかだ シリワン	かわさきし 川崎市
バックマン ジェイサン マシユー	さがみはらし 相模原市
ひりゅう りょうや 飛龍 涼也	ひらつかし 平塚市
ファム ルー アンジー	よこはまし 横浜市
ふあん すりよる 黄 帥烈	よこはまし 横浜市
ふじい あや 藤井 文	よこはまし 横浜市
ボジェロ ゴメス ルース	よこはまし 横浜市
みやざわ あいこ 宮沢 愛子	ひらつかし 平塚市
よう ほう 楊 芳	よこはまし 横浜市
り ゆき 李 由紀	はやままち 葉山町
りゆ ちんしる 柳 晴実	よこはまし 横浜市

退職 (2018年2月)	ホサニ アハマド ユースフ	かわさきし 川崎市
-----------------	---------------	--------------

にんき へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
 任期：2016（平成28）年11月～2019（平成31）年5月

しゅつしんこくおよ ちいき
 出身国及び地域

ちゅうごくよにん かんこくふたり ちょうせんふたり ひとり ひとり
 中国4人、韓国2人、朝鮮2人、フィリピン1人、ベトナム1人、
 ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり
 ブラジル1人、ペルー1人、アメリカ1人、タイ1人、インド1人、
 ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり
 カンボジア1人、ラオス1人、ガーナ1人、スペイン1人、モーリシャス1人